

大学生の日本史知識定着度： 愛知大学国際コミュニケーション学部生に対する調査から

Japanese University Students' Knowledge Level for Grounding in Japanese History:
Analysis of Test Results of Students of Faculty of International Communication, Aichi University

加 納 寛

KANO Hiroshi

愛知大学国際コミュニケーション学部

Faculty of International Communication, Aichi University

E-mail: kano@aichi-u.ac.jp

Abstract

This paper shows the tendencies of the knowledge level for grounding in Japanese history of the average students at the undergraduate level in Japan by analyzing the test results of the students of the Faculty of International Communication, Aichi University. The test results showed their basic knowledge of Japanese history was limited. Even the elementary school level of knowledge is incomplete among college students, though they have once memorized it in the compulsory education and studied Japanese history at the senior high schools. Only students who have taken the university entrance examination in Japanese history have the better, however not enough, knowledge level. It leads us to the conclusion that we should establish the system which keeps students utilize the basic historical knowledge in both their college and everyday life.

はじめに

大学生の学力低下が囁かれるようになって久しいが、筆者は 2007 年に平均的学力の大学生がもつ世界地理に関する基本知識の定着度について論じた [加納 2007]。そこでは、中学校教育段階で記憶しておくべきとされる 30 か国のうち、平均的には 22 か国程度の位置と国名が認識されているにすぎないことがわかった。また、男性学生の方が女性学生よりも

世界認識度が高いことがわかった。その一方、高等学校において地理を履修したか否かによる有意な得点差は観察されず、高等学校での地理履修の有無は必ずしも世界地理認識度の高さと結び付くものではないことがわかった。大学生に必要な学力は地理的分野に限られるものではないが、筆者の担当するアジア関係科目の授業実践の中で感じられる教員の理想と学生の学力実態とのギャップについては、データとしてかなり明らかになったと考えている。本稿では、筆者の授業実践において、世界地理認識度に並んで切実にギャップが感得される歴史知識、とくに学生の日本史知識¹の定着度について明らかにしていきたい。

日本史知識については、最近、義務教育年齢の児童・生徒の実態についてのデータが、国立教育政策研究所による「特定の課題に対する調査(社会)」の一部として公表された[国立教育政策研究所 2008]。これによれば、歴史上の人物とその業績の理解については小学校第6学年で約70%、中学校第3学年で約80%の正答率であったと報告されている。この他、日本史知識の定着度については、高校生の学力調査報告[大高 1961, 内部 2005, 国立教育政策研究所 2007]がある。しかし、大学生の日本史知識定着度に関する調査は管見では見当たらなかった。また、高校生に対する調査では、日本史を選択履修した生徒に対する調査はあっても、日本史を選択履修していない生徒の日本史知識定着度についての調査は見当たらなかった。これでは大学に入学してくる学生一般の日本史知識定着度とその傾向については把握することができない。

そこで本稿では、高等学校における日本史履修の有無にかかわらず、平均的学力を有する大学生の日本史知識定着度を明らかにし、その傾向を把握することを目的とする。平均的学力を有する大学生としては、入学試験合格者の偏差値が50程度とされる愛知大学国際コミュニケーション学部²の学生に日本史知識定着度に関するアンケートの回答について協力を求めることにした²。また、日本史の基本的知識としては、1989年3月告示(1992年4月施行)の『小学校学習指導要領』以来現行の指導要領³に至るまで社会の第6学年の「内容の取扱い」に列挙されている42名の人物[文部省 1989: 36]を、初等教育段階で理解しておくべき日本史知識の基本的部分の一部と認識し⁴、これらの人物の業績を示して(表1参照)⁵、そ

¹ 筆者が担当する科目はアジア関係科目が多いが、アジアについての様々な事象を理解するには歴史を認識する必要がある、アジアにせよヨーロッパにせよ他地域の歴史を学ぶ際には参照系として自国の歴史についての基本知識が必要となる。

² 「平均的学力」を有する学生としての愛知大学国際コミュニケーション学部生については、加納[2007: 2]を参照されたい。

³ 現行の指導要領は、1998年12月告示(2003年12月一部改正)の『小学校学習指導要領』である。

⁴ 本稿の調査回答者で日本の小学校教育を受けた者は全員、これら42名の人物とその事績について初等教育において学習してきたものと考えられる。

⁵ 各人物の業績については、国立教育政策研究所の調査において示された業績記述[国立教育政策研究所 2008]を基礎として、それに個人を特定できる情報を加えたものである。

の人物の名を記述回答させるアンケートを実施した⁶。これにより、平均的学力の大学生に対する授業を展開する上で重要なデータが得られるのみにとどまらず、20歳前後の日本人がどの程度の日本史知識を有しているかについても垣間見ることができ、今後の教育のあり方を考える上で貴重な立脚点となるであろう。

表1 設問と正答例

	設 問	正 答 例
ア	邪馬台国の女王として魏志倭人伝に登場する人物。239年に魏に使者を送り、「親魏倭王」の称号を受けた。	卑弥呼
イ	17条の憲法を定め、遣隋使を送った人物。用明天皇の皇子。法隆寺を建立したとされる。	聖徳太子
ウ	607年、遣隋使として中国にわたった人物。	小野妹子
エ	645年、蘇我氏を滅ぼし、大化の改新をおこなった人物。668年天皇に即位した。	中大兄皇子（天智天皇）
オ	大化の改新に参加し、藤原姓を与えられた人物。	中臣鎌足（藤原鎌足）
カ	東大寺の大仏を造立し、国分寺・国分尼寺を各国に建立させた人物。皇后は藤原氏出身の光明皇后。	聖武天皇
キ	大仏造営の勧進に起用され、大僧正となった人物。	行基
ク	中国の僧で、苦勞して日本へ来て、仏教を広めた人物。唐招提寺を創建した。	鑑真
ケ	平安時代中期に「御堂関白」と称された人物。「望月の歌」が知られている。	藤原道長
コ	『源氏物語』という小説をかな文字で書いた人物。	紫式部
サ	『枕草子』という随筆を書いた人物。	清少納言
シ	源氏をおさえ、武士で初めて太政大臣になった人物。娘を高倉天皇の皇后とした。	平清盛
ス	壇ノ浦の戦いで、平氏をほろぼした人物。奥州藤原氏を頼ったが、衣川で殺された。	源義経
セ	征夷大將軍になり、鎌倉幕府を開いた人物。	源頼朝
ソ	鎌倉幕府の執権で、元の襲来をしりぞけた人物。	北条時宗
タ	室町幕府の3代將軍で、京都の北山に金閣を建てた人物。	足利義満
チ	室町時代の画僧で、水墨画を完成させた人物。「山水長巻」や「天橋立図」が有名。	雪舟
ツ	室町幕府8代將軍で、京都の東山に銀閣を建てた人物。	足利義政
テ	イエズス会の伝道者で、日本にキリスト教を伝えた人物。	ザビエル

⁶ 国立教育政策研究所〔2008〕も、小学校6学年対象の調査においてこの42名とその業績の関連について問うている。ただし同調査では各人物の業績を記した設問に対して、人物の名を示したシールを選択して貼り付けて回答する方式がとられたが、本稿の調査では記述能力の定着度についても考察したかったため、人物の名を基本的には漢字で記述させる方式をとった。そのため、小学生に対する調査に比べて難易度が格段に上がっていることは理解しておくべきで、単純に比較することはできない。

設 問		正 答 例
ト	尾張出身の武将で、天下統一を進めた人物。安土城を築いたが、本能寺の変で自刃した。	織田信長
ナ	尾張出身の武将で、天下統一をはたし、太閤検地や刀狩をおこなった人物。	豊臣秀吉
ニ	三河出身の武将で、征夷大將軍になり、江戸幕府を開いた人物。	徳川家康
ヌ	江戸幕府の3代将軍で、参勤交代の制度を定めた人物。	徳川家光
ネ	浄瑠璃や歌舞伎の台本を書いた人物。代表作に『曾根崎心中』、『国姓爺合戦』などがある。	近松門左衛門
ノ	国学を学び『古事記伝』をあらわした人物。松坂の人である。	本居宣長
ハ	オランダの医学書を訳した『解体新書』を著した人物。翻訳の苦心談を中心とした『蘭学事始』も著している。	杉田玄白
ヒ	日本全国の沿岸を測量して、『大日本沿海輿地全図』をつくった人物。	伊能忠敬
フ	『東海道五十三次』などの浮世絵をえがいた人物。	歌川広重 (安藤広重), 葛飾北斎も可
ヘ	アメリカ海軍の軍人であり、黒船で来航して幕府に開国をせまった人物。帰国後に『日本遠征記』を編集した。	ペリー
ホ	江戸幕府の旗本出身で、新政府と話し合い、江戸城を平和に明けわたした人物。談話筆記に『氷川清話』がある。	勝海舟
マ	薩摩藩出身で新政府の中心であったが、征韓論に敗れて帰郷し西南戦争で敗れ自刃した人物。	西郷隆盛
ミ	1867年に天皇に即位し、五か条の御誓文を出した人物。在位中、日清戦争や日露戦争が起こった。	明治天皇
ム	長州藩出身で幕府をたおし、新政府の中心となった人物。別名を桂小五郎といった。	木戸孝允
メ	薩摩藩出身で幕府をたおし、新政府の中心となった人物。初代内務卿として政府を指導したが、1878年暗殺された。	大久保利通
モ	中津藩出身の洋学者で、『学問のすゝめ』をあらわした人物。慶応義塾を開設した。	福沢諭吉
ヤ	土佐藩の出身で自由民権運動を指導し、自由党を結成してその党首となった人物。	板垣退助
ユ	佐賀藩出身で国会開設にそなえ、立憲改進黨を結成した人物。首相をつとめた。	大隈重信
ヨ	長州藩出身で、大日本帝国憲法立案の中心となり、初代首相となった。安重根に暗殺された。	伊藤博文
ラ	日本の法律で外国人を裁判できるように条約改正した人物。下関条約では全権をつとめた。	陸奥宗光
リ	日本海海戦（日露戦争）時の連合艦隊司令長官であった人物。	東郷平八郎
ル	日露戦争の講和会議において日本全権となり、のちに完全に条約改正した人物。	小村寿太郎
レ	伝染病の研究で世界的に活躍した人物。研究中に黄熱病に感染してアフリカで死亡した。	野口英世

アンケート回収の方法としては、国際コミュニケーション学部の学科共通基幹科目である「外国語学習入門」と「フィールドワーク入門」においてアンケートを配布し、15分程

度の回答時間を与えた後、その場で回収する方法をとった。調査は2008年7月に実施した。アンケートを実施した2008年度「外国語学習入門」の履修登録者は126名であり、そのうち103名が1学年である。ただし、アンケート配布時にアンケートへの回答は任意である旨を発言した途端、後方の席に着いていた学生たちから大量に席を立つ者が現れ、結局その流れは学生全体に波及して、実際に回収できたアンケートは27部に留まった⁷。また、2008年度「フィールドワーク入門」の履修登録者は57名であり、そのうち40名が2学年であった。「フィールドワーク入門」の履修生には出席者全員から協力が得られ、回収できたアンケートは45部であった⁸。

1. 全体の傾向

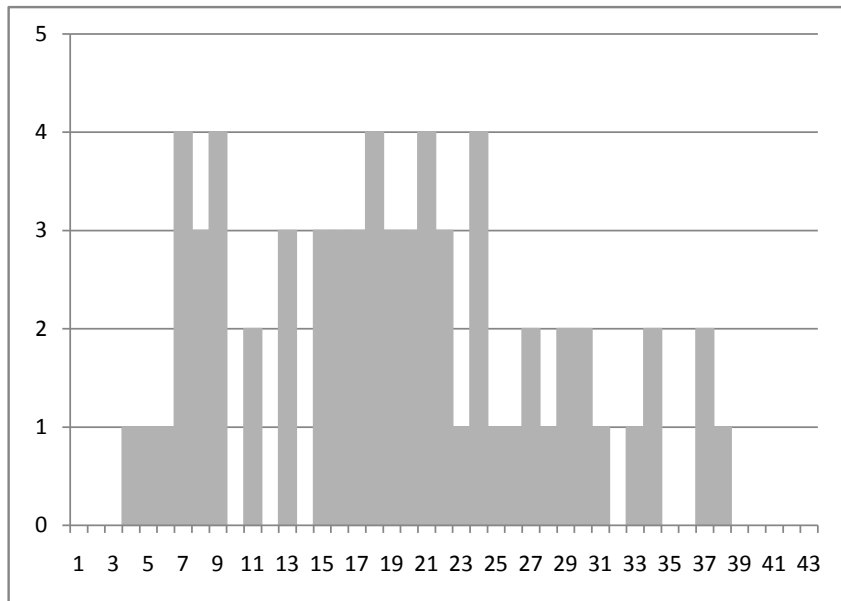
総計72名の回答者のうち、日本語を母語とする学生は66名、日本語を母語としない学生は6名であった。

日本語を母語とする学生の平均得点は42問中18.1点(得点率43.1%)、標準偏差は8.7点(100点満点換算で20.8点)、最高得点は37点(得点率88.1%)、最低得点は3点(得点率7.1%)であった。分布はグラフ1のとおりである。ただし、漢字の誤りを正答に含めた場合⁹の平均得点は21.6点(得点率51.4%)、標準偏差は7.9点(100点満点換算で18.9点)、最高得点は39点(得点率92.9%)、最低得点は4点(得点率9.5%)であった。66名のうち、女性は45名、男性は19名、性別不明2名であり、言語コミュニケーション学科生は29名、比較文化学科生は37名であった。また、1学年は17名、2学年は35名、3学年は9名、4学年以上が5名であった。これらの回答者は、その得点によってほぼ等分に、22点以上の高得点群21名、15点以上21点以下の中得点群23名、14点以下の低得点群22名に三分することができる。

⁷ 当該講義が、終了時刻が18時を越す5時限目であったことも非協力者の大量発生の原因の一つであったと思われるが、学問にもほとんど興味を示さずサービスの受け手としての感覚ばかりが非常に強くなった昨今の大学生に対しては、このようなデータ収集法はすでに限界にきているようである。

⁸ 「フィールドワーク入門」の履修者として、自らが調査者にならざるをえない前提の下で科目履修している学生たちであるため、調査に対する理解度が高かったことが、このような高回収率につながったと考えられる。

⁹ 本稿においては、漢字の誤りについては基本的に誤答扱いしているが、国立教育政策研究所「特定の課題に対する調査(社会)」のようなシール添付式の回答方式であれば漢字の誤りをおかした回答者についても正答となっていたはずである。なお、本稿では、「野口英世」を「野口英雄」などとしてかな表記に直した場合にも正答とならない回答については、単純な誤答として集計したが、これらの誤答についてもシール添付式の場合には正答となっていた可能性が大である。さらには、シール添付式の場合は記憶が曖昧であっても正答を導き出せる可能性も大きいので、国立教育政策研究所[2008]の小学校6学年に対する調査データと本稿のデータを単純に比較することは適当ではない。なお、国立教育政策研究所[2008]における小学校6学年の「業績から人物を選択する問題」においては、正答率が68.2%である。



グラフ 1 全体の得点分布（日本語を母語とする学生のみ）

日本語を母語としない学生の最高得点は 13 点（得点率 31.0%）であったが、0 点の学生も 2 名あったため、平均点は 4.3 点（得点率 10.3%）となり¹⁰、日本語を母語とする学生との得点差が大であるため、本稿では日本語を母語とする学生の回答のみを分析対象とした。

日本語を母語とする学生の得点率については、初等教育段階で定着しておくことが望まれる基本知識について、平均的学力を有する大学生の平均正答率が半分程度であったことから¹¹、一般的大学生の日本史に関する知識定着は決して十分であるとはいえないと評価せざるをえない。

以下、正答・誤答傾向や、回答者特性による分析を通じて、日本史知識定着度についてより詳細に観察していきたい。

2. 知識の定着傾向

愛知大学国際コミュニケーション学部生の正答率を、国立教育政策研究所 [2008] の調査による小学校 6 学年の正答率と比較して示したのが表 2 である。

¹⁰ 漢字の誤りを正答に含めた場合では、最高得点 16 点（得点率 38.1%）、最低得点 0 点、平均得点 5.5 点（得点率 13.1%）である。正答を導き出せなかった原因は漢字表記によるのではなく、日本史に関わる知識そのものの欠如であると考えられる。

¹¹ 「国際コミュニケーション」を学ぶ意志をもって大学に進学した学生たちであるので、日本に対する興味はそれほど高くない可能性もあるが、自国の歴史についての基本的知識を欠いた者に「国際コミュニケーション」が可能かどうかは甚だ疑問である。

表2 正答率

正答率*	愛知大学調査		小学校6学年調査	
	該当数	内容**	該当数	内容
85%以上	8	ザビエル、聖徳太子、卑弥呼(以上95.5%)、豊臣秀吉(↑)、紫式部(↑)、織田信長、徳川家康(↑)、小野妹子(↑)	9	卑弥呼(99.0%)、ザビエル、ペリー、野口英世、雪舟、杉田玄白、福沢諭吉、織田信長、聖徳太子
75%以上 85%未満	5	ペリー(↓)、清少納言、福沢諭吉(↓)、西郷隆盛(↑)、伊藤博文(↑)	12	伊能忠敬、足利義満、足利義政、小野妹子、豊臣秀吉、紫式部、鑑真、徳川家康、徳川家光、清少納言、藤原道長、行基
65%以上 75%未満	4	平清盛、鑑真(↓)、徳川家光(↓)、源頼朝(↑)	5	歌川広重、本居宣長、聖武天皇、近松門左衛門、平清盛
55%以上 65%未満	2	中大兄皇子(↑)、杉田玄白(↓)	3	源頼朝、源義経、北条時宗
45%以上 55%未満	6	藤原道長(↓)、足利義満(↓)、雪舟(↓)、野口英世(↓)、中臣鎌足、伊能忠敬(↓)	5	中大兄皇子、中臣鎌足、東郷平八郎、西郷隆盛、板垣退助
35%以上 45%未満	3	足利義政(↓)、板垣退助(↓)、北条時宗(↓)	4	陸奥宗光、伊藤博文、勝海舟、明治天皇
35%未満	14	聖武天皇(↓)、大隈重信、源義経(↓)、近松門左衛門(↓)、本居宣長(↓)、歌川広重(↓)、明治天皇(↓)、行基(↓)、勝海舟(↓)、東郷平八郎(↓)、大久保利通、小村寿太郎、木戸孝允、陸奥宗光(↓)(4.5%)	4	小村寿太郎、大隈重信、木戸孝允、大久保利通(23.5%)

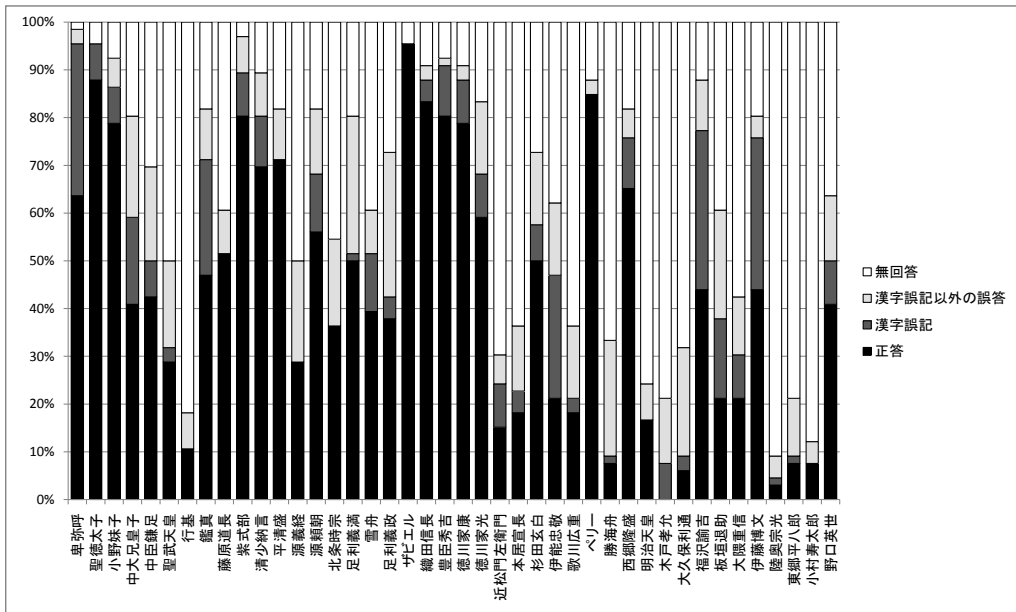
* 愛知大学調査の正答率は、正答と漢字誤記による誤答とを合算した率である。

** 太字は正答率が小学校6学年調査と同じ範囲にあったものである。

また、(↑)(↓)は、小学校6学年調査に比して正答率の範囲が変化したことを意味する。

調査方法の違いから単純な比較はできないものの、大学生の正答傾向は、小学生の正答傾向に比して、回答率の高い人物と低い人物との差が拡大していることが読み取れる。とくに源頼朝や豊臣秀吉、徳川家康、西郷隆盛、伊藤博文といった政治上の業績が顕著な人物については正答率が高まっている一方¹²、文化面での業績が顕著な人物については記憶が曖昧になる傾向が見られる。国立教育政策研究所[2008:27]では、文化関係の業績を残した人物についての正答率が政治関係の業績を残した人物についての正答率に比して高いとする結果を示していたが、その傾向は本調査では認められなかった。聖武天皇や足利義満、足利義政など、初等教育における修学旅行等で奈良や京都において当該人物に関係する文化遺産等を見学することで記憶が定着しそうな人物や、伊能忠敬や野口英世など、授業中に感動的な逸話を聞くことで印象に残りそうな人物については、記憶の減退が著しい。

¹² 源頼朝や豊臣秀吉、徳川家康が、本調査の回答者である愛知大学学生の多くの出身地にゆかりのある人物であることも、正答率が高くなったことに影響している可能性がある。



グラフ2 人物別正答率と誤答内容

全体としてみると、中世と近代の人名について知識の定着度が低かった（グラフ2参照）。とくに、近代以降に業績を残した人物に無回答率が高い者が目立った。時代の経過に比して登場人物が多くなる近代以降については、記憶が残りにくいようである。近代以降の人物に誤答が多いという傾向は、教育政策研究所調査〔2008〕と通じる傾向である。

誤答傾向としては、教育政策研究所〔2008〕の指摘のとおり、業績を残した時代と分野が類似している人物の取違えが多く見られた。たとえば、中大兄皇子と中臣鎌足、紫式部と清少納言、伊藤博文と板垣退助、福沢諭吉に対して夏目漱石¹³といった誤答である。幕末から明治初期にかけて業績を残した人物に対しては、坂本龍馬を挙げる誤答が目立った。また、氏を同じくする者（平清盛に対して平将門（6.1%）、北条時宗に対して北条政子（6.1%）、足利義満や義政に対して足利尊氏（各6.1%、7.6%））や、氏名の一部が類似している者（伊能忠敬に対して井伊直弼（4.5%））¹⁴、時代は異なるが業績を残した分野が類似しているといえなくもない者（本居宣長に対して紀貫之（6.1%）、東郷平八郎に対してマッカーサー（4.5%））を挙げる誤答も目立った。また、中大兄皇子や明治天皇については、業績に天皇に「即位」したことが明記されているにも関わらず、中臣鎌足（9.1%）や徳川慶喜（3.0%）の名を挙げている者もあり、勝海舟についても「旗本出身」であることが明記されているにもかかわらず徳川慶喜を挙げた者が正答を上回った（13.6%）。天皇と臣下の区別

¹³ このような誤答の大部分は誤字である。

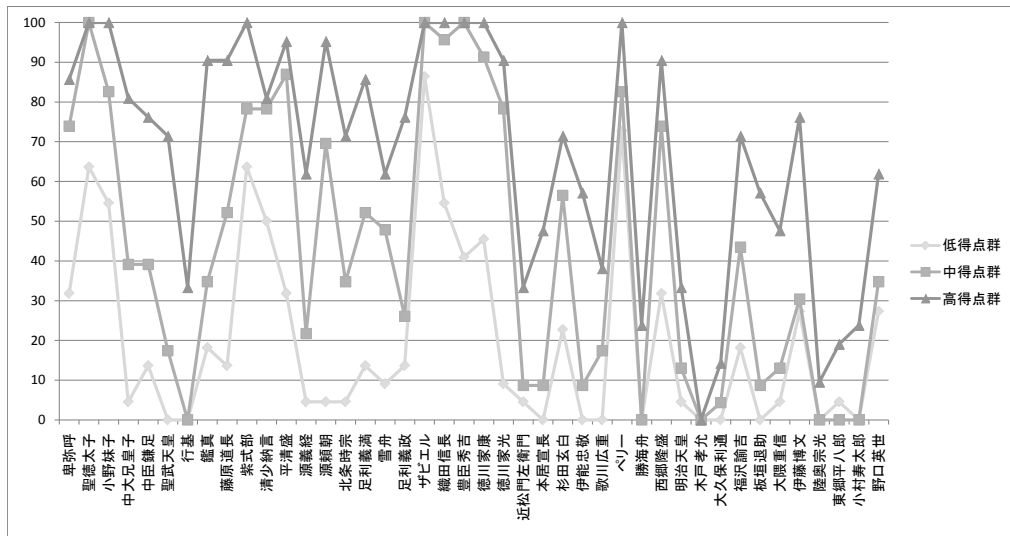
¹⁴ 決して多数ではないが、鑑真に対してガンジー（1.5%）、ペリーに対してペルー（1.5%）といった回答も見られた。

表3 人物別正答率・誤答内容表

	正 答	漢字誤記	漢字誤記 以外の誤答	無回答	計
卑弥呼	63.6	31.8	3.0	1.5	100
聖徳太子	87.9	7.6	0.0	4.5	100
小野妹子	78.8	7.6	6.1	7.6	100
中大兄皇子	40.9	18.2	21.2	19.7	100
中臣鎌足	42.4	7.6	19.7	30.3	100
聖武天皇	28.8	3.0	18.2	50.0	100
行基	10.6	0.0	7.6	81.8	100
鑑真	47.0	24.2	10.6	18.2	100
藤原道長	51.5	0.0	9.1	39.4	100
紫式部	80.3	9.1	7.6	3.0	100
清少納言	69.7	10.6	9.1	10.6	100
平清盛	71.2	0.0	10.6	18.2	100
源義経	28.8	0.0	21.2	50.0	100
源頼朝	56.1	12.1	13.6	18.2	100
北条時宗	36.4	0.0	18.2	45.5	100
足利義満	50.0	1.5	28.8	19.7	100
雪舟	39.4	12.1	9.1	39.4	100
足利義政	37.9	4.5	30.3	27.3	100
ザビエル	95.5	0.0	0.0	4.5	100
織田信長	83.3	4.5	3.0	9.1	100
豊臣秀吉	80.3	10.6	1.5	7.6	100
徳川家康	78.8	9.1	3.0	9.1	100
徳川家光	59.1	9.1	15.2	16.7	100
近松門左衛門	15.2	9.1	6.1	69.7	100
本居宣長	18.2	4.5	13.6	63.6	100
杉田玄白	50.0	7.6	15.2	27.3	100
伊能忠敬	21.2	25.8	15.2	37.9	100
歌川広重	18.2	3.0	15.2	63.6	100
ペリー	84.8	0.0	3.0	12.1	100
勝海舟	7.6	1.5	24.2	66.7	100
西郷隆盛	65.2	10.6	6.1	18.2	100
明治天皇	16.7	0.0	7.6	75.8	100
木戸孝允	0.0	7.6	13.6	78.8	100
大久保利通	6.1	3.0	22.7	68.2	100
福沢諭吉	43.9	33.3	10.6	12.1	100
板垣退助	21.2	16.7	22.7	39.4	100
大隈重信	21.2	9.1	12.1	57.6	100
伊藤博文	43.9	31.8	4.5	19.7	100
陸奥宗光	3.0	1.5	4.5	90.9	100
東郷平八郎	7.6	1.5	12.1	78.8	100
小村寿太郎	7.6	0.0	4.5	87.9	100
野口英世	40.9	9.1	13.6	36.4	100

や将軍と旗本の区別といった、君臣の区別がつかなくなっている実態が読み取れた。

漢字表記については、とくに福沢諭吉、卓弥呼、伊能忠敬、鑑真、伊藤博文に誤記が目立った。そのほか、中大兄皇子や源頼朝については、「中野大兄皇子」や「源野頼朝」とする誤記も複数例見られた。



グラフ 3 得点群別傾向

得点群別の正答率から見てみると(グラフ3参照)、高得点群、中得点群、低得点群の三者間で正答率が大きく懸隔したものとして、伊能忠敬(高得点群と中得点群との正答率差が6.6倍、低得点群では正答率0%)、板垣退助(同6.6倍、低得点群では正答率0%)、本居宣長(同5.5倍、低得点群では正答率0%)、聖武天皇(同4.1倍、低得点群では正答率0%)、大隈重信(同3.7倍、中得点群と低得点群との正答率差が2.9倍)、源義経(同各2.9倍、4.8倍)、明治天皇(同各2.6倍、2.9倍)、歌川広重(同2.2倍、低得点群では正答率0%)、中大兄皇子(同各2.1倍、8.6倍)、北条時宗(同各2.1倍、7.7倍)が挙げられる。

また、高得点群と中得点群・低得点群との二者間で正答率が大きく懸隔したものとしては、行基(中得点群・低得点群では正答率0%)、勝海舟(中得点群・低得点群では正答率0%)、小村寿太郎(中得点群・低得点群では正答率0%)、近松門左衛門(高得点群と中得点群との正答率差が3.8倍)、足利義政(同2.9倍)、鑑真(同2.6倍)、伊藤博文(同2.5倍)が挙げられる。これらの人物についての設問は、高得点群を見分けようとする際に有効である。

一方、高得点群・中得点群と低得点群との二者間で正答率が大きく懸隔したものとして、源頼朝(中得点群と低得点群との正答率差が15.3倍)、徳川家光(同8.6倍)、雪舟(同5.3倍)、藤原道長(同3.8倍)、足利義満(同3.8倍)、中臣鎌足(同2.9倍)、平清盛(同2.7倍)、杉田玄白(同2.5倍)、豊臣秀吉(同2.4倍)、福沢諭吉(同2.4倍)、西郷隆盛(同2.3倍)、

卑弥呼（同 2.3 倍）、徳川家康（同 2.0 倍）が挙げられる。これらの人物についての設問は、低得点群を見分けようとする際に有効である。

いずれの得点群においても 60% 以上の正答率となったものとしては、ザビエル、聖徳太子、紫式部があった。一方でいずれの得点群においても 20% 未満の正答率となったものとしては、東郷平八郎、陸奥宗光、大久保利通、木戸孝允があった。とくに木戸孝允は、正答率 0%、漢字誤記率 7.6% であり、高得点群の大学生であっても記憶が定着していないことがわかった。

3. 回答者特性別に見た知識の定着傾向

次に、性別、所属学科、高等学校での日本史履修の有無などといった回答者特性によって、日本史の基本知識の定着傾向にどのような差があるかを見ていきたい。

まず、地理認識についての調査〔加納 2007〕では有意差が観察できた性別による差を見よう。女性の平均点は 17.2 点（得点率 41.1%）、男性の平均点は 20.7 点（得点率 49.2%）であり、男性の得点の方が高い。しかし、性別による得点差について t 検定を実施すると、両側 5% の有意水準では有意な差があるとはいえなかった¹⁵。

また、学科別の差異を見てみても、言語コミュニケーション学科生の平均値は 19.0 点（正答率 45.2%）、比較文化学科生の平均値は 17.4 点（41.4%）であって大きな差はなく、学科別による得点差について t 検定を実施しても、両側 5% の有意水準では有意な差があるとはいえなかった¹⁶。

次に、高等学校における日本史履修の有無による得点の差異を見ていきたい。高等学校において日本史を履修した回答者の数は 40 名（60.6%）であり、不履修者 26 名（39.4%）を大きく上回った。なお、地理・歴史科目の履修状況を学年別に見てみると、4 学年以上（2005 年 3 月以前高等学校卒業）5 名のうち、日本史履修者が 3 名（60.0%）、世界史履修者が 2 名（40.0%）、地理履修者が 0 名、3 学年（2006 年 3 月高等学校卒業）9 名のうち、日本史履修者が 7 名（77.8%）、世界史履修者が 4 名（44.4%）、地理履修者が 0 名、2 学年（2007 年 3 月高等学校卒業）35 名のうち、日本史履修者が 22 名（62.9%）、世界史履修者が 30 名（85.7%）、地理履修者が 2 名（5.7%）、1 学年（2008 年 3 月高等学校卒業）17 名のうち、日本

$$^{15} t_0 = \frac{17.2 - 20.7}{\sqrt{\frac{(45-1)(7.8)^2 + (19-1)(10.2)^2}{45+19-2} \left(\frac{1}{45} + \frac{1}{19} \right)}} = -1.47 \quad t_{0.05/2, 62} = \pm 2.00$$

よって、 $|t_0| < |t_{0.05/2, 62}|$ となり、有意な差があるとはいえない。

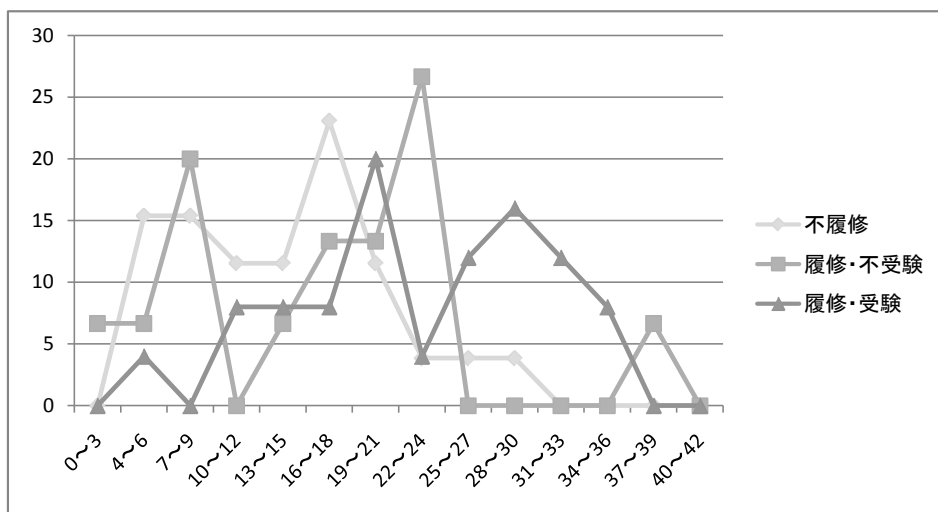
$$^{16} t_0 = \frac{19.0 - 17.4}{\sqrt{\frac{(29-1)(9.6)^2 + (37-1)(8.0)^2}{29+37-2} \left(\frac{1}{29} + \frac{1}{37} \right)}} = 0.73 \quad t_{0.05/2, 64} = \pm 2.00$$

よって、 $|t_0| < |t_{0.05/2, 64}|$ となり、有意な差があるとはいえない。

史履修者が8名(47.1%)、世界史履修者が11名(64.7%)、地理履修者が1名(5.9%)であった。日本史履修者については、2006年3月高等学校卒業者をピークに漸減していることがわかる。世界史履修者については、2006年度に大騒動となった世界史不履修問題の影響か、2007年の高等学校卒業者については世界史履修率が高いが¹⁷、2008年高等学校卒業者については世界史履修率は65%程度にまで下がっており、結局大騒動の中での世界史履修問題は、騒動が鎮静化するとまた不履修に戻ってしまっていることもわかった。

日本史履修者の平均得点は20.8点(得点率49.4%)、不履修者の平均得点は14.0点(得点率33.4%)であり、日本史履修者の得点の方が高かった。ただし履修者の標準偏差は不履修者の標準偏差を上回り、履修者の得点の散らばりの方が大きかった。日本史履修の有無による得点差についてt検定を実施すると、両側1%の有意水準で有意な差があることがわかった¹⁸。

他方、大学入試センター試験における日本史受験の有無による得点の差異を見てみると、日本史履修者40名のうち大学入試センター試験の日本史を受験した者は25名(62.5%)であった。日本史履修者で大学入試センター試験の日本史を受験していない者の平均得点は16.5点(得点率39.4%)であり、実は日本史不履修者の平均得点と大きな差異はなかった。その一方、大学入試センター試験の日本史を受験した者の平均得点は23.3点(得点率55.4%)であり、日本史履修者の平均点を押し上げていたのが大学入試センター試験の日本史受験者であったことがわかる。三者の得点分布を示したのがグラフ4である。



グラフ4 高校での日本史履修とセンター試験での日本史受験の有無別点数分布

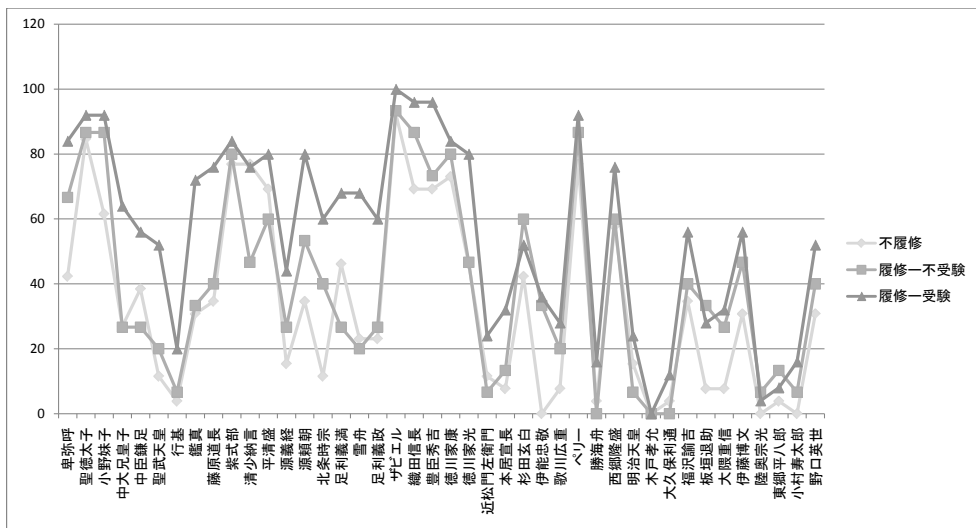
¹⁷ それでも世界史履修率は100%ではない。

¹⁸
$$t_0 = \frac{14.0 - 20.8}{\sqrt{\frac{(26-1)(6.5)^2 + (40-1)(9.0)^2}{26+40-2} \left(\frac{1}{26} + \frac{1}{40}\right)}} = -3.22 \quad t_{0.01/2, 64} = \pm 2.66$$

よって、 $|t_0| > |t_{0.01/2, 64}|$ となり、有意な差があるといえる。

大学入試センター試験の日本史を受験しなかった者のうち高等学校での日本史履修の有無による得点差についてt検定を実施すると、両側5%の有意水準では有意な差があるとはいえなかった¹⁹。この点では、高等学校における地理履修の有無によっては世界地理認識程度に有意な差があるとはいえなかった大学生の世界地理認識調査と同じ傾向が出ているといえる[加納2007]。

一方、高等学校における日本史履修者のうち、大学入試センター試験の日本史を受験有無による得点差についてt検定を実施すると、両側5%の有意水準で有意な差があることがわかった²⁰。したがって、高等学校での日本史履修の有無は、日本史の基本知識の定着にはあまり大きな影響を与えないが、大学入試センター試験において日本史を受験する場合には日本史の基本知識の定着度が高くなることが観察できた。



グラフ5 高校での日本史履修とセンター試験での日本史受験有無別正答率

三者の人物別正答率を示したのがグラフ5である。高等学校での日本史不履修者と日本史は履修したが大学入試センター試験の日本史は受験しなかった者との差異は、前者が伊能忠敬や歌川広重といった近世の文化的業績者についての知識や近代に業績を残した板垣退助や大隈重信についての認識が極めて貧困なのに対して、高等学校で日本史を学習した

$$^{19} t_0 = \frac{14.0 - 16.5}{\sqrt{\frac{(26-1)(6.5)^2 + (15-1)(8.9)^2}{26+15-2} \left(\frac{1}{26} + \frac{1}{15} \right)}} = -1.03 \quad t_{0.05/2, 39} = \pm 2.02$$

よって、 $|t_0| < |t_{0.05/2, 39}|$ となり、有意な差があるとはいえない。

$$^{20} t_0 = \frac{16.5 - 23.3}{\sqrt{\frac{(15-1)(8.9)^2 + (25-1)(8.3)^2}{15+25-2} \left(\frac{1}{15} + \frac{1}{25} \right)}} = -2.42 \quad t_{0.05/2, 38} = \pm 2.02$$

よって、 $|t_0| > |t_{0.05/2, 38}|$ となり、有意な差があるといえる。

後者はそうした人物についての知識もある程度有しているという点である。また、大学入試センター試験の日本史を受験した者と受験しなかった者との差異は、大化の改新以降室町幕府に至る時代の人物についての知識の定着度の高低にあるといえる。

結び

歴史学習は、『高等学校学習指導要領』にも謳われているように、「歴史的思考力を培う」ことが重要である。しかし、初等教育レベルの基本的知識を備えることなしに歴史を楽しむんだり考察したりすることは非効率的であり、おそらくは不可能である。したがって、歴史的素養を身に付ける必要条件としては、基本的知識の定着をいずれかの段階で図り、その知識の定着が継続することが必要不可欠である。

国立教育政策研究所〔2008〕によれば、義務教育段階にある児童・生徒の日本史に関する基本的知識は、かなりの程度定着しているようである。

ところがその一方で、本稿で見てきたように、義務教育を終え社会に出る一步手前の段階にある大学生一般に関しては、日本史についての基本的知識の定着度は非常に低いと評価せざるをえない。回答者の特性別分析によれば、高等学校での日本史履修を経た程度では小学校で獲得した基本的知識も定着せず、大学入試センター試験で日本史を受験するまで学習してはじめてある程度の基本的知識が定着する傾向があることが明らかになった。しかし、大学入試センター試験で日本史を選択受験する者は大学入学志願者の半数以下に過ぎないし、初等教育段階で身に付けるべき日本史の基本的知識は、世界史を学ぶ上でも地理を学ぶ上でも、あるいは社会人として文化的生活を営む際にも必要であることを考えれば、このような状況は望ましくなく、学習指導要領の理念も活かされない。したがって、初等教育で得た基本的知識を、中等教育、高等教育においても維持するための工夫が必要であるといえる。

参考文献

- ・加納寛（2007）「大学生の地理的世界認識：愛知大学国際コミュニケーション学部生に対する調査から」『文明 21』19
- ・国立教育政策研究所教育課程研究センター（2007）「平成 17 年度高等学校教育課程実施状況調査科目別分析の概要及び改善点（上）（国語総合，世界史 B，日本史 B，地理 B）」『中等教育資料』56-8
- ・国立教育政策研究所教育課程研究センター（2008）『特定の課題に関する調査（社会）調査結果』国立教育政策研究所ウェブサイト（http://www.nier.go.jp/kaihatsu/tokutei_shakai/index.htm）2008 年 6 月 28 日更新
- ・小西弘通・岩永健司（2004）「高校生の日本史学習に対する意識の実態調査：群馬県内の高校生に対するアンケート調査から」『群馬大学教科教育学研究』4
- ・文部省（1989）『小学校学習指導要領』大蔵省印刷局
- ・大高常彦（1961）「高等学校日本史の学力調査結果の概要」『文部時報』1002
- ・内部学（2005）「江戸文化など身近な内容は良好：高等学校教育課程実施状況調査②日本史」『内外教育』5542